

RAテスト

<どんな検査か？>

RA因子の有無で関節リウマチを診断

<検査でわかること>

体内に異物や細菌が侵入すると、それを攻撃する抗体がつくられ、免疫ができます。この免疫機構の異常で、抗体が自分のからだを攻撃してしまう病気の代表的なものが膠原病です。

RAテストは膠原病の中でも特に多い慢性関節リウマチを診断するために、血清中のリウマトイド因子の有無を調べる検査です。検査結果は陰性(-)、弱陽性(+)

陽性(++)の3段階に分けられ、陰性なら正常です。RAテストで陽性ならからだのどこかに免疫異常があると考えられます。ただし、高齢者では健康な場合でも、まれに陽性になることがあります。

ASO

<どんな検査か？>

抗体の有無で溶連菌の感染を診断

<検査でわかること>

扁桃炎や咽頭炎、中耳炎、猩紅熱しやうこうねつなど炎症と化膿により高熱や手足の関節痛を起こす病原菌として、溶血性連鎖球菌(溶連菌)が知られています。

ASOは、とくに重要なA群溶連菌が感染したときにできる抗体の値を測定します。溶連菌は、赤血球をこわす(溶血させる)ストレプトリジンという毒素を出しますが、溶連菌に感染すると血清中にその防御反応として、抗ストレプトリジンオという抗体ができます。そこで、血清中にできる抗体の値を測定することにより、溶連菌に感染しているかどうか調べます。

血清鉄

<どんな検査か？>

人間の身体の中には約3～5gの鉄が存在しています。そのほとんどが赤血球中のヘモグロビンと結びつき、残りは肝臓や骨髄・筋肉などに存在しています。肝臓などに蓄えられた鉄がわずかに血液中に流れ出て、骨髄に運ばれ血液を造るために使われます。これを血清鉄といいます。

<検査でわかること>

食べ物からとった鉄分のほとんどが小腸から吸収されます。その吸収が悪い場合や食物の好き嫌いなどで鉄分を取る量が不足すると、血液中の鉄も不足してしまいます。鉄が不足すると、ヘモグロビンと結びつく数が減ってしまい貧血をおこしてしまいます。このことから、鉄欠乏性貧血が考えられるときに行なわれます。

また、血清鉄の濃度からは体内の鉄分がヘモグロビンと結びつき蓄えられ、血液を造るために骨髄に運ばれる運搬経路や骨髄での血液を造る働きに問題がないかを知ることができます。

網状赤血球

赤血球になる一步前の未熟な赤血球のことを網状赤血球といいます。

<検査でわかること>

網状赤血球が、赤血球中にどれくらいあるかを調べると、血液を造りだしている骨髄の働き（造血）を知ることができます。数値が高いと骨髄での造血が盛んで、逆に低いと造血が低くなっているといえます。

網状赤血球は、貧血などの血液を造りだすもとが関係しているような病気を知るためには欠かせない検査です。

免疫グロブリン<IgG・IgM・IgA>

免疫グロブリンとは、人の免疫（抵抗力）に関係する血液の中のたんぱく質の一種です。

G,A,M,E,D,の5種類があります。

- ・ IgG...血液中の免疫グロブリンの80%を占めています。

IgGは胎盤を通過することができるので、妊娠中にお母さんが持っている病気に対する免疫力を胎児に与えることができます。これによって、赤ちゃんはお母さんとほぼ同じ量のIgGを持って生まれてくるので、生まれてすぐの赤ちゃんを病気から守れるのです。

- ・ IgM...初期抗体と呼ばれ、何か感染症にかかった場合、一番早く数値が高くなります。途中、IgGと入れ替わり数値が下がるのも比較的早いと言われていることから感染症の診断に役立ちます。

- ・ IgA...IgGとは違い、胎盤を通過することができないので生まれたばかりの赤ちゃんには、ほとんど見られませんが初乳に多く含まれているため母乳によって与えられます。

身体の中で造られるようになるのは、この中では一番遅く、思春期前後に大人と同じ値になると言われています。

CH50(血清補体価)

補体とは、血液中のタンパク質の一種で、いろいろな種類があります。
ある種の病気でこの補体が消費されて少なくなりますので、病気の種類や病気の
勢いをみる指標として使われることがあります。